

1 教科について

昨年度課題

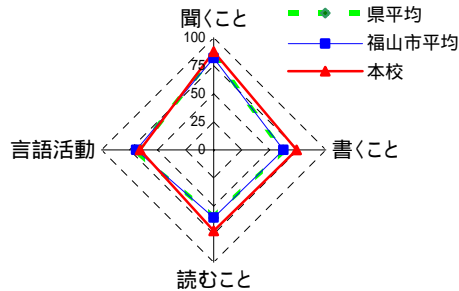
- ① ☆【書くこと】【読むこと】事実がどのような理由で述べられているかについての的確に読み、そのわけを要約すること。
- ② ◇【書くこと】目的に応じて収集した情報の中から、必要な事柄を取り出し、表現様式に即してまとめること。
- ③ ☆【言語事項】主語と述語の関係を捉えること。

昨年度課題を受けて取組んだ具体的事項

- ① 【読むこと】文章をじっくり読んで、前後の文脈から理由を明らかにして話したり、書いたりする活動を大切にする。
- ② 【書くこと】礼状・依頼状・スピーチ原稿など、相手や目的を意識した様々な形態の文章を日常的に書きせることで記述力を高める。
- ③ 【言語事項】主語の役割を理解させ、様々な文の中で意識させる指導をする。

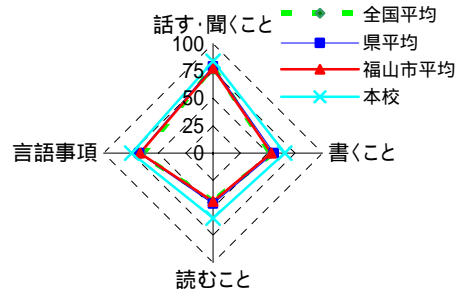
「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均 67.4% 福山市平均 67.3%
 学校平均 72.2%



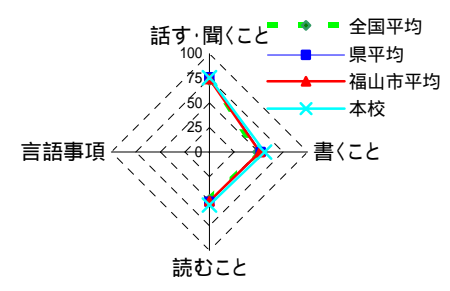
全国学力・学習状況調査正答率（A問題）

全国平均 65.4% 県平均 67.8%
 福山市平均 66.8% 学校平均 74.8%



全国学力・学習状況調査正答率（B問題）

全国平均 50.5% 県平均 53.3%
 福山市平均 52.7% 学校平均 56.2%



この調査結果は、児童の学力の特定の一部分を示したものです。

重点課題

- ① ☆【読むこと】登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読むこと。
- ② ☆【書くこと】目的に応じて情報を読み取り、分かったことや自分の考えを明確に書くこと。
- ③ ◎【言語事項】主語と述語の関係をとらえること。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

全教科・全校で取り組むこと

- ① 体験活動を通して気付いたことなどや、自分の考えをまとめて、表現する場を充実する。
- ② 言語知識（文章構成など）について朝の学習タイムを活用して系統的にドリル学習に取り組む。

国語科で取り組むこと

- ① ワークシートを工夫し、場面の展開に関わる言動をpushしながら物語全体を把握する力や叙述と関係付けて人物の心情を読み取る力を付けていく。
- ② 必要な情報を書き換えたりする言語活動を計画的に取り上げ指導する。字数や構文など条件に即して書く指導を充実する。

検証方法及び目標値

- ・「読むこと」「書くこと」に関する評価テストを3学期におこなう。(通過率80%)
- ・主述関係に関する評価テストを3学期におこなう。(通過率80%)

授業改善シート〔算数〕

福山市立明王台小学校

1 教科について

昨年度課題

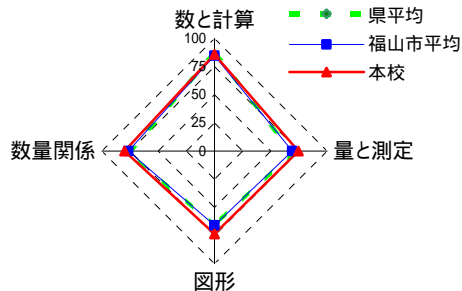
- ①☆【数量関係】ともなっていくる数量の関係を見つけること
- ②◇【量と測定】与えられた情報から必要なものを選択して解決すること
- ③◎【図形】辺の数など直方体の構成要素についての理解・四角形の定義

昨年度課題を受けて取組んだ具体的事項

- ①【数量関係】表を書いて、ともなっていくる数量の変化を考えさせるだけでなく、規則性をもとに関係式に至る指導を徹底させる。
- ②【量と測定】必要な情報を取捨選択して、問題を解決する活動を多く取り入れる。
- ③【図形】具体的操作を取り入れながら直方体の構成要素や四角形の定義について理解させる。

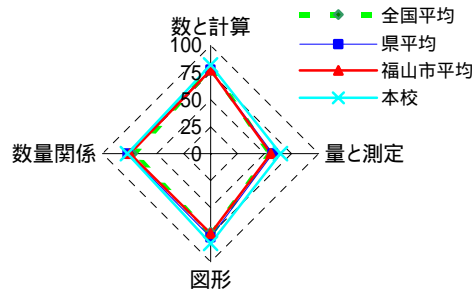
「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均 76.1% 福山市平均 75.6%
 学校平均 79.5%



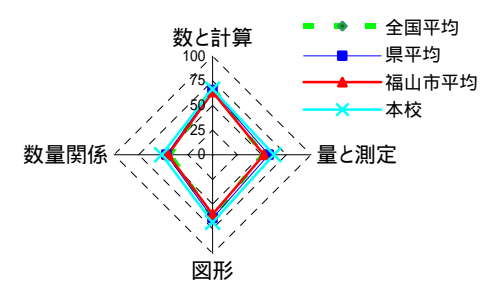
全国学力・学習状況調査正答率 (A問題)

全国平均 72.2% 県平均 74.3%
 福山市平均 72.9% 学校平均 77.0%



全国学力・学習状況調査正答率 (B問題)

全国平均 51.6% 県平均 53.6%
 福山市平均 51.0% 学校平均 57.3%



この調査結果は、児童の学力の特定の一部分を示したものです。

重点課題

- ①☆【量と測定】面積についての感覚が身につけていないため、150 cmを縦10 cm×横15 cmの長方形と見当づけられなかった。また広さの単位にもかかわらずcmを選択している。
- ②◇【記述式】筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を式と言葉を用いて記述できることができない。
- ③◎【図形】三角形の定義は理解しているが活用して問題を解決することができない。
- ④◎【数量関係】伴って変わる2量を式に表せない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

全教科・全校で取り組むこと

- ①自分の考えを他者に説明する際に、何を根拠にしたかが明らかになっているかを児童どうして確認し合う活動を入れる。
- ②学んだことを生活に活かす場を設定する。

算数科で取り組むこと

- ①広さなど量の大きさについて、様々な具体物の大きさを調べたり、確かめたりする算数的活動を積極的に取り入れる。
- ②数量やその関係を表現するために、式だけでなく、式が何を求めるためのものか、計算から何が言えるのかなどを問いかけ、言葉や図などで補って説明する力をつける。

検証方法及び目標値

- ・6年生は3学期に評価テスト(「算数A」「算数B」問題)を実施する。(学校平均正答率80%以上)
- ・5年生は3学期に評価テスト(「『基礎・基本』定着状況調査」)を実施する。(学校平均正答率90%以上)

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

(1) 生活・学習

改善したい点（「基礎・基本」，「全国」）	今後の具体的な取組みの内容
<p>◎一日の勉強時間が一時間以下の児童が61.4%もいる。また，一週間，家庭での読書時間が一時間以下の児童が54%いる。テレビを一日3時間以上見ている児童が44.3%もいることが原因と考えられる。</p> <p>◇体の不自由な人やお年寄り，困っている人の手助けをしたことがあると答えた児童が39.2%であった。ほとんどの家庭が核家族であり，体の不自由な人やお年寄り等とふれ合う体験が十分でないことが原因として考えられる。</p>	<p>◎学級通信，学級懇談，個人懇談などで具体的な数値をあげながら児童の状況を把握してもらい，家庭と連携をとりながら学習のやり方やテレビの見方のきまりをつくるなどの改善策を話し合う。</p> <p>◇様々な人たちとふれあうことができる体験学習を各学年で計画し，そのことを通して思いやりの心などを育てていく。</p>

(2) 教科

教科	児童の回答と学校の指導についての課題（「基礎・基本」，「全国」）	授業改善の方向性や具体的な取組み
国語	<p>☆5年生では，話をするとき一番伝えたい中心をどこで言うと分かりやすいか考えながら話をしていないと答えた児童が，35.7%である。また，つなぎ言葉や指示語に気を付けながら読んでいないと答えた児童は35.7%である。6年の児童も意見などを発表するときうまく伝わるように話の組立てを工夫していると答えた児童が，73%であり，他の設問よりも少ない。これらのことから，文章の構成や組み立てに対する意識が薄いことがわかる。</p>	<p>☆普段から，構成メモを作成させる等して，段落や文章の組立てを意識させながら，書いたり読んだりする活動を工夫する。また，「ことばの教育」で説明の仕方等の言語技術を身につけさせ，国語の活動で活用させていくようにする。</p> <p>☆説明文教材を中心に接続語や指示語などの言葉に着目し，段落相互の関係に気をつけながら文章を読ませる指導を充実させることで，文章の構成や組み立てに対する意識を高めていくようにする。</p>
算数	<p>☆5年生では，理由をあげて自分の考え方や解き方を説明することが不十分と感じている児童が，37.1%であった。6年生も公式やきまりを習うとき，そのわけを理解したり，説明したりすることについて他の質問より数値が低い。これまでの授業での取組みが十分でなかったことが原因の一つとして考えられる。</p>	<p>☆問題解決の際には，説明を書かせたり言わせたりする等の活動を充実させ，根拠を明確にしながら自分の考え方をわかりやすく伝えることができるように，継続的に指導する。また，各児童が自力解決したことを分かりやすく伝え合うことで，達成感が味わえるような活用型の授業を工夫していく。</p>

